日頃の看護活動を見直し、災害対応に活用できる職場づくりを目指して

JCHO 福井勝山総合病院
災害看護専門看護師/皮膚・排泄ケア認定看護師　長谷川美智子

2019 年は猛暑、8 月の九州北部の集中豪雨、9 月の台風 15 号による千葉南部を中心とした被害と多くの災害に見舞われる年となりました。災害により大変な生活を送られている被害者の方々が多くおられるとお察しいたします。心よりお見舞いを申し上げるとともに、最前線で救援・復旧活動に従事されている方々の安全をお祈りします。

災害は私たちの社会機能を崩壊し、日常生活に困難を生じさせ生活や健康に脅威を及ぼします。そこで、今回は災害が発生する前の備えの時期に私が勤務する病院で行っている災害対応について看護部の活動を中心にご紹介いたします。

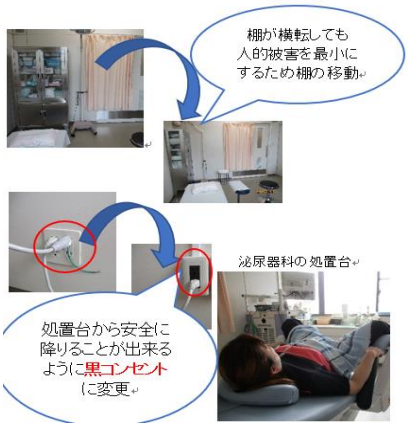
私は福井県北東部に位置し、近年は県立恐竜博物館が立地され多くの観光客のかたが訪れる勝山市に勤務しています。奥越医療圏（人口 59,000 人程度）の災害拠点病院であり急性期医療の中核を担っています。高齢化率が 34.8%（全国平均 27.4%）と高く、今後も進展する見込みです。

このような地域で災害が発生した場合の当院の役割は、①外来・入院患者、従業員の命を守ること②、被害を受けた方々の疾患の悪化を防ぐために診療継続の有無を早期に決定し、診療を開始する体制をとること③被災者の健康回復に努めるため避難所の救護に関して、自治体と連携した体制をとることであると考えています。そのために 2018 年度に看護部で行った外来部門の災害対応訓練は、「日頃からの看護行動を見直し、災害対応に活用する」ことを目的に行いました。

被災地支援の経験がない職員が多い中で、災害発生時の状況をイメージし、具体的にライフラインが麻痺した場合に起こりうる診療場の状況を話し合う機会をつくり、避難経路の確認の必要性や処置中の災害対策を具体的に考える必要性を伝えていきました。結果、診療場から避難行動に移す方法を診療科毎に考える時間となりました。外来部門の平時は診療業務を中心とした活動が求められますが、今後は災害発生時に命を守る行動や診療体制の構築に貢献できる人材育成を目指し、外来部門で働く看護職が日頃の行動を振り返りから災害対応能力を向上させていけるように環境を整えていきたいと考えています。

●災害発災後の地図を用いた避難経路の確認

●備品置き場の確認



●アクション･カードの読み合わせを行い、
日頃の看護実践を振り返る場の設定